

令和 8 年 (2026年) 8 月

総務委員協議会資料

観光にぎわい部農業振興課

案件

・ 枚方市里山保全基本計画の改定について

1. 政策等の背景・目的及び効果

本市では、東部地域に残る貴重な里山環境を保全・再生し、次世代へ継承することを目的として、「枚方市里山保全基本計画」に基づく取組を進めてきました。

現行計画「第2次枚方市里山保全基本計画（計画期間：平成29～令和8年度）」が今年度で終了することから、これまでの取組成果や課題を整理するとともに、近年の社会情勢や自然環境の変化、担い手不足などの課題を踏まえ、新たな計画へ改定するものです。

2. 内容

(1) 現行計画の主な実績

- ・ 市民団体や土地所有者、関係機関との協働による里山保全活動が一定期間促進されました。
- ・ ボランティア団体による保全活動や森林環境譲与税を活用することで、災害リスクの高いエリアの里山環境の維持・改善を図りました。
- ・ 自然観察会や環境学習などを実施し、市民の里山保全への理解や意識向上に取り組みました。
- ・ 生物多様性の保全や自然環境の価値についての普及啓発を進めました。

※詳細は別紙の「第2次枚方市里山保全基本計画の進行管理について」に整理しております。

(2) 今後の課題

現計画期間の中後期まではボランティア団体等の増加や里山環境の一部整備など、着実に事業の成果が得られていましたが、近年においては下記のような課題が顕在化してきました。

- ・ 保全活動の担い手の高齢化や後継者不足が進行。これに伴いボランティア団体の活動休止や解散等へと波及。

- ・ 放置竹林や管理不足森林の増加など、維持管理が十分に行き届かない区域が現存。
- ・ 保全活動と利活用の両立。

（３）次期計画の主な方向性

次期計画では、これまでの保全活動を継承しつつ、（２）で示した今後の課題への対応や持続可能な里山の管理体制の構築をめざします。

①持続可能な保全体制の構築

- ・ 市民団体、事業者等の多様な主体との連携や参画促進
- ・ 若年層等次世代の担い手育成

②里山環境の保全・再生

- ・ 森林、竹林の適切な管理
- ・ 生物多様性の保全
- ・ 災害リスクの低減

③里山利活用の推進

- ・ 自然体験活動等裾野を広げる取組の創出
- ・ 里山資源の6次産業化に向けた環境整備

④利活用に向けた推進体制の構築

- ・ 地域団体、土地所有者、事業者、行政等が連携するしくみづくり

3. 実施時期等

策定スケジュール

令和8年（2026年）	8月	総務委員協議会へ改定に向けた報告
	9月まで	市民・関係団体等アンケート、ヒアリング
	10月	計画素案の作成
	11月	総務委員協議会へ計画素案の報告
	12月	パブリックコメント実施
令和9年（2027年）	2月	総務委員協議会へ計画案の報告、パブリックコメント結果公表
	3月	計画の改定・公表

4. 総合計画等における根拠・位置付け

- ① 総合計画 基本目標 自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち
施策目標23 豊かな自然環境を大切にするまち



② 枚方市都市計画マスタープラン（令和８年度改定予定）

基本方針 水や緑の豊かな地域資源を生かし、
質が高く潤いのある都市づくり

③ 枚方しみどりの基本計画

基本方針 枚方の優れたみどりを守り活かしていく
基本方向 里山の保全・活用

第二次枚方市里山保全基本計画の進行管理について

グループ	担当課	取り組みの名称	取り組み内容	～令和8年度実績
(1) 里山の自然環境の保全、維持・回復	農業振興課	多様な主体と連携した里山の保全・活用のモデル地区の導入検討	多様な主体と連携した里山の保全・活用のモデル地区の導入検討	未利用地であった元公園墓地用地を市有里山林として整備し、広く市民の参加を募集する里山楽校や準ボランティア（講座修了生）を募り枚方市独自の里山保全・活用の試みを行った。
	農業振興課	地域制緑地の指定継続や拡大検討	- 既存の地域制緑地の指定継続 - 新たな市民緑地制度など、みどりの保全策の導入検討 - 異なる主体間の連携による維持管理の仕組みづくりの推進。	多様な活動組織を取り込んだ維持管理の仕組みとして、大阪府のアダプトフォレスト制度を活用した管理協定を行った。
	農業振興課	市民や市民団体との協働による生態系や里山景観に配慮した自然環境の形成	- 生物多様性の状況、環境保全の重要性の啓発 - 特定外来種の駆除や捕獲、害獣に対する支援対策の検討	イノシシ被害防止対策事業補助金や里山ボランティア活動補助金等による支援や、春、秋の植物観察会、里山楽校等による自然環境保全の啓発を行った。
	農業振興課	市民や市民団体との協働による防災機能の高い森林づくり	- 大阪府との連携によるさらなる治山事業の推進 - 里山ボランティア活動団体への支援 - 山火事予防の啓発	大阪府による治山ダムの設置事業は完了。補助金等による里山ボランティア団体への活動支援を行った。また、地元やボランティア団体等と協働し、災害のリスクが相対的に高いエリアの放置竹林について整備を行った。
	総評：	計画期間中、ボランティア団体やCSR活動に参加する企業が一定期間増加しており、里山保全活動が促進された。また、未利用地であった元公園墓地用地を市有里山林として整備し、林業のプロを講師として里山楽校を実施したところ、一定期間、ボランティア団体に入会する受講生の比率が向上できた。		
	今後の課題：	近年において、活動を停止する里山ボランティア団体が複数あり、また活動継続している団体においても新規会員の確保が顕著な課題となっている。これは、高齢化により活動範囲、活動内容の縮小や活動継続性等の課題が表面化していると考えられる。今後、企業や大学などと、多様な主体と連携していく必要があるため、具体的な方法や仕組みづくりに取り組む必要がある。 市有里山林等で多様な主体と連携した里山の保全・活用のモデル地区として位置づけ、新たな里山の維持管理の仕組みづくりについて中核的な試みを行う実践フィールドとして活用しつつ、それを広めていく施策の検討が必要。		
(2) 里山の活用の促進	農業振興課	地元と連携した里山の周知・PR	- 市民への里山保全への協力、意識啓発 - 里山保全に関するイベント、広報活動の継続・拡充	里山の魅力発信として、地元の協力による市民向けのタケノコ掘りイベントや、市役所周辺でのタケノコ販売等を実施した。
	東部資源循環センター	地元と連携した里山の周知・PR	里山保全に関するイベント、広報活動の継続・拡充	環境フェスタ 氷室ふれあい里の駅開催

(2) 里山の活用の促進	農業振興課	里山でとれる資源による地産地消の促進	・資源を活用する方策・地産地消の推進 ・農業ふれあいツアーの継続実施	ふれあい朝市「野菜の直販」支援を実施した。 枚方メンマやローカル1万プロジェクト(補助金)事業のように、里山資源を商品化することで、保全活動を経済活動に結び付けた取り組みを推進した。 公民連携プラットフォームを通じて、民間企業と市内の里山資源を活用した事業者とのマッチングにより、タケノコの缶詰やスパイスメンマ等の全国展開(ECサイト)を行った。
	環境政策課	自然観察や森林療法、健康増進等の場としての里山の活用	・自然観察や森林療法、健康増進の場、学校の環境学習や生涯学習の場としての活用	令和4,5年度に調査を実施。環境教育の基礎資料として活用すべく第7回枚方市自然環境調査の報告書が作成された。
	文化生涯学習課			津田生涯市民学習センターで実施していた「里山散策」は、通算で215回実施したがR7年度に終了。
	農業振興課			里山ウォーキングの申込者数として、R5:36組, R6:1組, R7:7組であった。なおR6以降は有料化(昼食代徴収)としている。
	スポーツ振興課			野外活動センターにおいて、学校キャンプを実施したほか、自然観察や天体観望、ネイチャークラフトなどの野外活動プログラムを提供。
	農業振興課	事業者の社会・環境貢献活動の場としての里山の活用	・環境貢献活動(CSR活動)、社員教育の場としての里山の活用を促進 ・事業者と地権者、市民団体とのマッチング ・活動フィールドの拡大、検討	H23年から活動継続している企業1社に加え、大阪府アダプトフォレスト制度を活用して2社がCSR活動を展開。
	農業振興課	市民団体との協働による誰もが里山の魅力を体験できる場所づくり	・元公園墓地用地、(仮称)自然環境保全活用事業用地の活用について検討	令和5年度以降、元公園墓地用地を市有里山林として里山講座に活用している。
	総評:	里山の活用促進のため、種々イベントや調査を行っているが中断や縮小等に至ったものがある一方、新たな里山の魅力を発信するためのイベントに加えて、資源を活用した商品化等が実施され、活用促進の形態に変化が生じている。		
	今後の課題:	これまで継続してきたイベントの活用のみならず、里山資源を商品化し経済活動として継続して取り組みを支援・推進する施策や仕組みの検討が必要。また、企業や市町村協議会(生駒山系森づくりサポート協議会や生駒山系広域利用促進協議会)等との連携も検討し、広域的な展開の試みが必要。		
(3) 維持管理の強化	農業振興課	市民団体との協働による里山での活動を支えるインフラ整備	・里山の維持管理に必要なインフラ整備の検討、推進	豪雨により被災した里山道の改修設計を行った。令和9年度以降に改修工事を行う。 里山資源の活用や今後のボランティア活動についての意見交換会を実施した。

(3) 維持 管理の強化	農業振興課	市民活動の誘発と支援	・ 森林ボランティア育成講座「里山講座」の継続実施 ・ 様々な主体を対象とした講座内容の検討	アンケートの結果を踏まえ令和5年度より移動手段を持つ人を対象にプロの講師による講座として実施し6名の修了生がボランティア団体に加入した。なお令和7年度は応募者が1名のため中止。(参加人数 R5:20名、R6:7名、R7:中止)
	農業振興課	里山保全活動への支援	・ 里山保全活動補助金の交付継続 ・ 対象品目の見直し等を検討	手続きが煩雑であるとの意見があったことから、令和5年度に様式の見直しを行い令和6年度から新様式で手続きを行ったが、令和6年度以降は3団体のみの実績となった。
	農業振興課	里山での営農支援制度の導入検討	・ 農地を利用したい市民・市民団体と農地所有者をつなげる制度の導入検討	援農ボランティアについては、市内で2か所の受け入れ先があり、それぞれ募集しており、市においても随時案内している。
	総評：	維持管理の強化では、市民活動の誘発を目的に、元公園墓地用地を活用した里山楽校を継続して行ってきたが、参加者が減少している。また、多様な主体のプラットフォームや保全活動の支援においても積極的な活用はなく減少傾向にある。これは嗜好の多様化や企業の定年延長等、時代の変化により既存の取組みのみでは維持管理の強化に繋がらないと考えられる。		
	今後の課題：	里山の担い手確保のために、ボランティア活動や企業のCSR等に頼るだけでなく、積極的に資源を創出しPRしていくことが重要であり、そのためには柔軟に手段を変えながら最終的なアウトカムを重視した取組みを検討する必要がある。		

第二次里山保全基本計画での目標設定値

◆市民意識による指標

項 目	策定時の値（年度）	目標値（R8）	中間報告時の実績	直近の実績
里山や農地などの豊かな自然環境が保全されていると感じている市民の割合(市民意識調査)	40.3%（H27）	50%	32.7%（R元）	38.3%（R7）

◆計測可能な指標

項 目	策定時の値（年度）	目標値（R8）	中間報告時の実績	直近の実績
森林ボランティア育成講座修了者数（累計）	265人（H27）	485人	376人（～R3）	416人（～R7）
里山ボランティア活動団体の活動日数（累計）	2,243日（H27）	5,000日	3,854日（～R3）	4,979日（～R7）
東部地域の緑被率	77.9%（H26）	77.90%	77.9%（R5）	77.8%（R6）
里山ボランティア活動団体数	6件（H27）	8件	8件（R3）	3件（R7）
里山保全のイベント参加者数	711人（H27）	1,000人	-（R3）	349人（R7）
森づくり委員会、ボランティア団体意見交換会開催件数	4回（H27）	6回	1回（R3）	1回（R7）
里山保全活動をCSR活動として実施している事業者数	3社（H27）	8社	5社（R3）	3社（R7）